

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎他教会の働きを知ろう。
- ◎教会ホームページの充実と活用。
- ◎地域との交流促進。

聖語 御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。(Ⅱテモテ 4:2)

敬老の方々は歴史の証し人

主がイスラエルに行われた大いなる御業をことごとく見た長老たちの存命中、民は主に仕えた。(士師記2:7)

司祭 ミカエル 小南 晃

9月13日(日)、今年、当教会において、75歳以上を迎えられる方々を覚えて「敬老感謝礼拝及び祝賀会」を行い、主がその方々を長い年月の間、み恵みの内に守り導いてこられたことを共に喜び、感謝をお献げします。

今年は1940年生まれの方々が、敬老感謝の対象の方々に加えられます。

また今年は、戦後70年の節目の年と言われています。今年、新たに敬老対象者になられた方々は、終戦の年に5歳。恐らく、子ども心にも戦争の記憶が鮮明にあるのではないのでしょうか。

戦後70年間、日本は戦争をすることなく今に至っています。それは「平和憲法」と共に、戦争の悲劇の記憶を保持している世代の方々の存在が大きいことであつたと思うものです。

戦争を知らない世代

表題の聖句は、モーセに率いられて荒野を旅し、続いてヨシュアの指揮のもと、約束の地を手に入れて行くにあたり、神の驚くべき恵みの御業を経験した世代が存命中には、イスラエルの人々は主から離れることはなかったということが記されています。

しかしそうした経験の無い世

代になった時、イスラエルの民はどうなったのでしょうか。

士師記2章11節に次のように記されています。

「その世代が皆絶えて先祖のもとに集められると、その後、主を知らず、主がイスラエルに行われた御業も知らない別の世代が興った。イスラエルの人々は主の目に悪とされることを行い、バアルに仕えるものとなった。」

このことは「主を怒らせた」と記されています。そして主の怒りにより、イスラエルは、度々、敵の略奪に遭うなどの悲劇に見舞われることとなります。

恵みにしろ、悲劇にしろ、大きな体験をした世代から、その体験の無い世代に移って行く時、問題が生じます。

2015年現在、戦後生まれの人口が80%を越えたと言われています。イスラエルの民が、主の偉大な業を体験したのとは逆の体験になりますが、次第に戦争の悲劇を体験した世代が少なくなることにより、その悲劇から学んだ「平和の尊さ」に鈍くなりつつあるのではないのでしょうか。

今、国会で審議中の「安全保障関連法案」は、今までの「平和憲法」の解釈を変え、「集団的自衛権」を認めるというものです。

そのことにより戦争への敷居が低くなるのが危惧されます。

日本聖公会では「正義と平和委員会」が、この法案に対して緊急抗議声明を出しています。

語り継ぐことの大切さ

大きな体験をした世代があつたとしても、世代が移るにつれ、忘れられてしまうのは仕方ないではないかと諦めの思いが起るかもしれません。しかしだからこそ「語り継ぐ」という営みが大切になって来るのです。

イスラエルの歴史に話を戻しますと、主に対する信仰を失ったイスラエルの民は、やがて国を失い、バビロン捕囚という悲劇を味わうこととなります。言うならば「負の歴史」を負うことになりました。しかしそこから解放された時、2度とその悲劇を繰り返すまいと、その「負の歴史」を書き留め、後代に伝えてこうとします。それが聖書の持っている意味の一つでもあります。

戦争、また大災害など悲劇を体験した世代が、それをその体験の無い世代に語り継いで行く事の大切さ、そしてまた次代を担う者がその言葉を真摯に受け止めて行くこと、それが悲劇を繰り返さないために求められることです。

敬老感謝礼拝で覚える方々は歴史の証し人でもあります。その人生において、また信仰生活において体験されたことを、折あるごとに、後代の私たちに語り継いで頂けましたら幸いに思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)